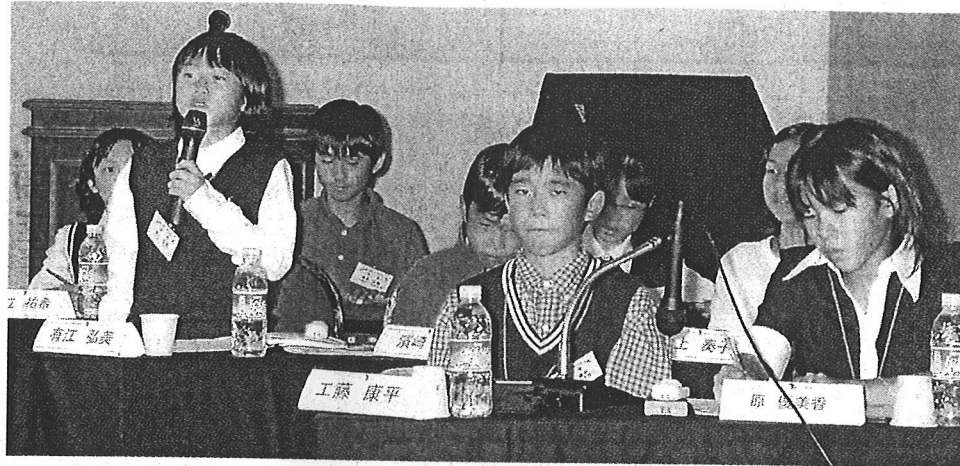


西日本新聞

2004年(平成16年)10月11日 月曜日 19版

(第3種郵便物認可)



日韓子どもシンポジウムで、意見発表する日本側の小学生たち＝韓国・釜山市

日韓の未来へ 小学生シンポ

韓国・釜山

【釜山10日田代謙二】福岡市と韓国・釜山市の小学生による日韓子どもシンポジウムが十日、釜山市のユースホステルであり、ホームステイやキャンプで相互に訪問した経験を踏まえた未来志向の提案が相次いだ。

日本コリア市民交流ネットワーク福岡(福岡市)などの主催で、昨年十月の福岡開催に続き二回目。公募で選ばれた両市の小学五、六年生各十人ずつが参加した。

シンポでは、日韓各四人が衣、食、住や文化体験について発表。福岡側からは、愛宕小六年の沢木公輔君が「日韓

「トンネルを」「文化祭作る」…

福岡の10人 提案続々

をトンネルで結んだら交流の機会をもっと増やすことができると提起。同小六年の足立祐希さんは「日韓子ども文化祭をつくれれば面白くて良い関係ができるだろう」と話した。

一方、釜山側からは光日小六年の片荷環さんが「双方の文化を体験する日をつくり、互いの食べ物や伝統文化が楽しめるようにすればいい」と提案した。

コーディネーターを務めた釜山の竜糖小学校の李章植教頭は「互いの違いを認めた上での肯定的なアイデアが多く出た」と、活発な議論を喜んでいた。